

震災がれき受け入れ

伊賀市長、前向き検討へ

「市民の理解あれば」

東日本大震災のがれき受け入れ問題で、伊賀市の内保博仁市長は11日、県のガイドライン案について「理解できる」とし、「伊賀市民、地域のみなさんの理解があれば、市長としては受け入れを前向きに検討していきたい」と説明した。

県が10日に独自のガイドライン案を示したことを受けて、この日の定例記者会見で述べた。市内にはごみ

固形燃料(RDF)製造施設

「みくらリサイクルセンタ

ー」と伊賀南部環境衛生組

合(管理者・亀井利克名張

市長)が運営する伊賀南部

クリーンセンターがある。

RDFは桑名市多度町の

三重ごみ固形燃料発電所で

処理していて、「三重県の

発電所が、製造したRDF

を受け入れることができる

のならば、市民に理解を求

めて、市として受け入れの

方向にしたい」と話した。

発電所は2002年から

運転を開始し、現在は伊賀

市を含む14市町から搬入さ
れた年間約4万8千トン(2
011年度)を処理してい
る。

伊賀南部クリーンセンタ

ーでの受け入れについて

は、管理者の亀井市長が同

環境衛生組合の議会にはか

るのが先だと指摘し、「亀

井市長から要請があれば、

地域のみなさんに説明にい
くことも必要になる」と話
した。